

# 永続的発展と自立を目指して



新年明けましておめでとうございます。町民の皆様にはお元気で平成十七年の新年を迎えられたことと、心からご祝詞を申し上げます。

昨年は、景気も回復基調が続き、春からの天候も順調で農作物の豊作が期待されましたが、観測史上最多の台風上陸や集中豪雨により全国各地で被害が発生しました。更に十月下旬には新潟県中越地震が発生し、会津地方の一部では被災したところもありました。被災された皆様方に心からお見舞い申し上げます。すとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

幸いにもわが町では、土木施設及び農業施設等の災害発生は、数箇所だけで済みましたが、災害発生の完全予測はできませんので、常日頃から緊急時の対応を心がけているところでありました。さて、わが町振興計画の主要プロジェクトとして位置づけているこまちダム建設は、本体の定礎式が終了し、平成十八年度の完成を目指しており、あぶくま高原道路は小野インターチェンジから平田インターチェンジまで開通し、磐越道の四車線化は、郡山ジャンクションからいわきジャンクション間七十一・四キロのうち約六十パーセントが完成供用され、順調に推移しております。こうした社会資本の整備に伴いあぶくま地域の拠点都市としての役割を担うべく、わが町の潜在力も大いに高まってきております。

一方、近隣町村との合併を模索して参りましたが、今すぐ合併できる気運にはありませんので、「笑顔とがんばり行革大綱」を策定し、職員定数を削減し百人体制を構築すべく十二課一室一局を七課二室一局とする機構改革の実施、更に行政サービス向上の一環として休日の窓口業務実施や中央さくら保育園の保育時間延長など、所管課で実行できるものと町全体で取り組むものなど、それぞれ改革プログラムを定めて取り組んでいる状況であります。

そのような中、昨年六月に内閣総理大臣から認定された「健康・安心のまちづくりによる地域再生計画」五万人生活圏構想の推進により、公立小野町地方総合病院の拡充による阿武隈地域医療の充実、循環型農業の推進によるミネラル健康農法の普及をベースに、食からの健康増進と産業振興施策、小野町出身の人材活用による知的産業の導入、「小野町ふるさと暮らし支援センター」や「株」まちづくり小野」との連携により「ひと・もの・かね」の更なる交流を推進し、わが町の優れた社会資本・地理的条件を最大限活用したまちづくりを進めて参ります。

今、国と地方は三位一体改革に取り組んでおります。長引く景気低迷を乗り切るための施策として、地方交付税及び国庫補助負担金の減額、税源の地方移譲についての改革を進めております。引き続き財源の確保は、わが町にとって非常に厳しい状況ではありますが、町民皆さまのご理解とご協力を頂きながら、精一杯の努力を傾け、愛するわが町の発展を目指して参ります。

平成十七年は、振興計画の後期基本計画のスタートの年であります。「未来さわやか・・・自然と共生するあぶくま拠点都市」実現と「定住と交流と快適環境のまちづくり」のため最善の努力をして参る所存であります。今年一年の皆様のご健康とご多幸、更に千支の酉のように大きく飛翔する年になるようお祈りいたし年頭のご挨拶といたします。

小野町長 春山 茂



待望のあぶくま高原道路開通

